

地方創生関連交付金活用事業について

地方創生関連交付金制度とは

国が、地方版総合戦略に基づき地方創生を実現していくため、同戦略に位置付けられた地方創生事業であって、内閣総理大臣の認定を受けた先導性の高い取組を財政的に支援する制度で、事業費の1/2が国から交付される。申請にあたって重要業績評価指標（KPI）を設定し、毎年検証する。ソフト事業を支援する**地方創生推進交付金**とハード事業を支援する**地方創生拠点整備交付金**がある。

令和4年7月22日

1.広域公共交通でつなぐ地域の宝（人・観光・健康・仕事） 1市2町連携プロジェクト事業

※地方創生推進交付金活用事業
(令和元年度～令和3年度)

概要

下野市、壬生町、上三川町による1市2町エリア全体の資源を最大限に活かすため、地域住民の生活交通と観光2次交通の両面から、エリアを東西につなぐ巡回路線バスシステムを構築し、併せて1市2町連携による広域周遊観光や東京圏等からの移住定住促進、域内住民の健康増進等を通じた生涯活躍のまちの形成、さらにはコンパクトなまちづくり等を連動させ、それら施策を一体的に推進することで圏域全体のまち・ひと・しごと創生の実現につなげる。



1.広域公共交通でつなぐ地域の宝（人・観光・健康・仕事） 1市2町連携プロジェクト事業

※地方創生推進交付金活用事業
(令和元年度～令和3年度)

①広域連携バス実証運行

H31.10から広域連携バスの実証運行を目指し事業を推進する。初年度は、上三川町の通勤・通学者の需要に合理的な時刻・ルートを設定し実証を行う。また、利用者がバスのリアルタイム運行情報等を検索できる「バスロケーションシステム」等のICTを活用した利用促進や沿線地域住民や事業者と協働し、収益性を重視した運行を実施する。



【経路】下野市（JR：石橋駅）～壬生町（東武：おもちゃのまち駅、獨協医大病院）
下野市（JR：石橋駅）～上三川町（ゆうきが丘団地（令和3年度中をもって廃止））

1.広域公共交通でつなぐ地域の宝（人・観光・健康・仕事） 1市2町連携プロジェクト事業

※地方創生推進交付金活用事業
（令和元年度～令和3年度）

②広域連携バスにより向上する地域回遊性の活用

・公共交通連携観光促進事業

観光ニーズの検証によりバスやタクシーといった公共交通と観光地とを連携した旅行パック企画の商品化、自走化を図る。

・広域連携健康マイレージ事業

医療環境や回遊性と併せて地域内外へ発信し、健康マイレージ事業をPRすることで地域の「健康」を磨き上げる。

・1市2町PR事業

観光としてのロゲイニング事業の自走を目指し、回遊性の向上により1市2町の特産物販売拠点の相互連携効果による売上増加及び首都圏マルシェでの特産物の販売による1市2町の認知度向上と販路拡大により、地域農家等の増収を図る。

③広域連携バスにより向上した地域の魅力による移住定住の促進

・移住促進のため創業支援促進

空き家バンク・空き店舗バンクと連携を強化し、創業支援とパッケージ化した一体的な支援を実施

・1市2町移住・定住促進費用

東京圏での1市2町の魅力発信のため合同移住・定住促進セミナーを実施

2.6次産業化施設ゆうがおパークの活性化事業

※地方創生推進交付金活用事業
(令和元年度～令和3年度)

概要

地域の6次産業化、都市住民との交流の拠点である「ゆうがおパーク」に外部専門人材による店舗経営のノウハウを注入し、経営のブラッシュアップを図るとともに、モニターツアーなど観光イベントや田植え、稲刈り、芋ほりなどの農業体験事業との連携・連動を図ることにより、都市と農村の交流を促進する。

本事業においては、地元住民の出資法人が運営するゆうがおパークが、自立安定的な経営となり、農業資源を活かした地域活性化の拠点となるために、その初期段階を行政が支援するものである。



① 専門家によるゆうがおパークの現況の把握、商品開発リサーチ

ゆうがおパークの現況について第3者機関へ委託し、年間を通じた経営診断を行い、具体的な経営改善策を実施していく。

② 特産品であるかんぴょうを活用したイベントの実施

イベント等を通じて都市住民との交流促進を図り、来場者に対し6次産品の試作販売、アンケート調査を行い検証し、商品改善につなげる。



しもつけかんぴょうまつり

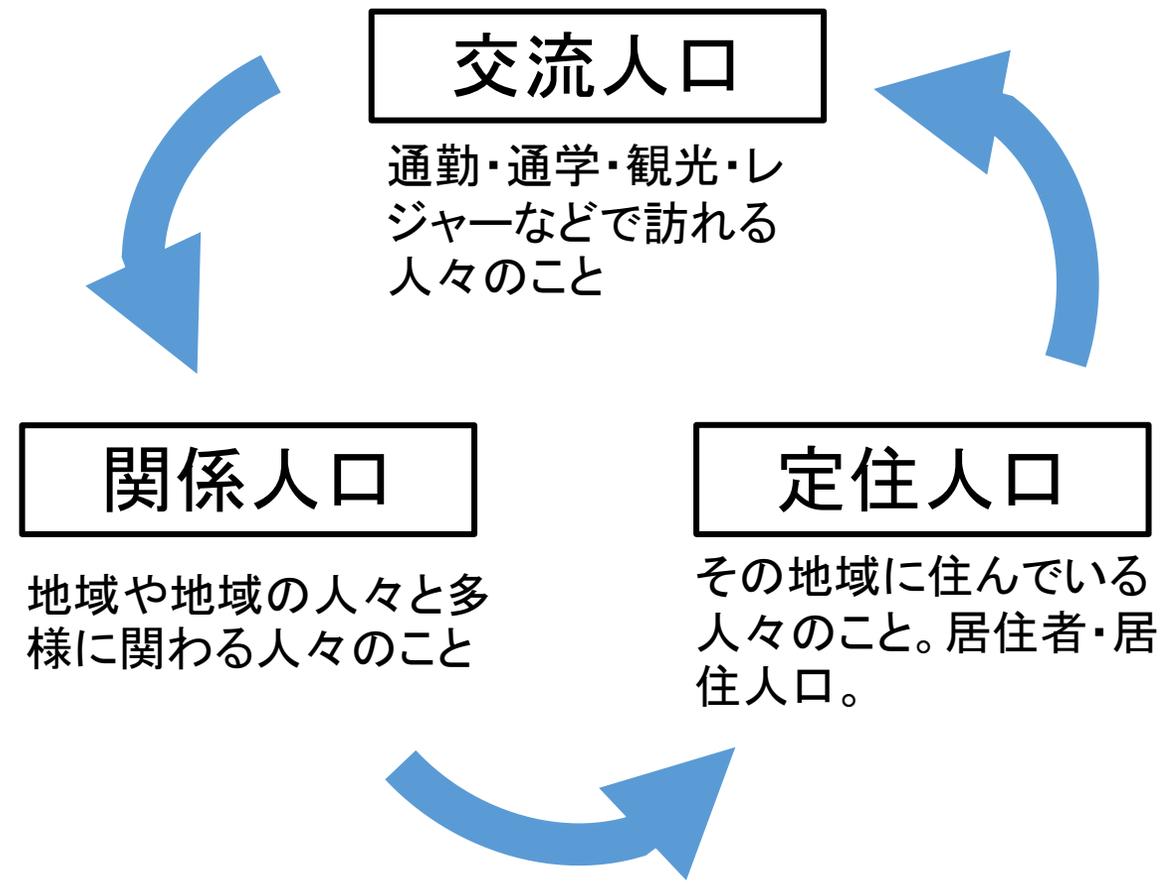
3. 下野市を知ればもっと好きになる！ 交流・関係・定住 人口好循環拡大プロジェクト

※地方創生推進交付金活用事業
(令和2年度～令和4年度)

概要

これまでの本市の取組や地域資源を活用しながら、東京圏をはじめとする市外からの新たな交流人口及び多様な形で地域と継続して関わる関係人口を創出するとともに、既存の交流人口に本市への思い入れを強めてもらい、関係人口へ移行していく取組を行う。

また、まちづくり人材を育成し、関係人口のサポートや調整を行い、関係人口の地域での受け皿となる組織・団体を設立する。これらは、地域の人と外部の人とのつながりを少しずつ密にしていくことで、将来的な定住人口につなげていき、交流人口、関係人口、定住人口の好循環を生み出すこと。



3. 下野市を知ればもっと好きになる！ 交流・関係・定住人口好循環拡大プロジェクト

※地方創生推進交付金活用事業
(令和2年度～令和4年度)

① 本市を知ってもらうことで新たな交流人口・関係人口を創出する取組

- ・サブカルチャーによる観光PR事業、多くの動画やSNSを活用したシティプロモーション事業による交流人口・関係人口の創出。
- ・東京圏で交流会の実施、まちづくりに興味のある方が集まる既存のまちづくりイベントへの出展。
(令和2年度は市主催のオンラインイベント開催)



オンラインイベントの様子

② 交流人口から関係人口へ移行させる取組

既存の交流人口をサブカルチャーのファンクラブ会員やSNSを活用した情報発信サポーター会員としていく。



ご当地アニメ「サクラノチカイ」ファンクラブ



プチハピしもつけ
インスタグラム

3. 下野市を知ればもっと好きになる！ 交流・関係・定住人口好循環拡大プロジェクト

※地方創生推進交付金活用事業
(令和2年度～令和4年度)

③ 地域におけるまちづくり人材の育成と関係人口の支援組織・団体の設立及び運営支援の取組

地域の人や地域の課題(ニーズ)と、地方で活動をしたい・関わりたいと思っている外部の人とを結び付け、調整サポートしながら自分自身も積極的にまちづくりに携わる人材の育成及びその中心的役割を担うハブ的機能を有した支援組織・団体の立ち上げを行う。

④ 上記①～③の一体的なPRと情報発信

これまで市の魅力、観光、移住など個別にPRしていたものを、交流人口・関係人口・定住人口の好循環を生むために連携し、既存のサイトをベースに、これらの情報を一体的に魅せるサイトに構築し直し、動画やSNSなどでの情報発信を行うとともに、東京圏を対象としたWEB広告などを出稿し、積極的なPR活動を実施する。

